

実践例「学校・学級経営の深化・充実」

「課題3 地域に根ざし、家庭や地域と連携した開かれた学校・学級経営の創造」

I 学校名 神恵内村立神恵内小学校

II 学校の概要

本校は、全校児童 21 名、1・2、3・4、5・6 年生の複式学級で 3 学級編成となっている。神恵内村は、積丹半島の西側に位置し、人口約 750 人、日本海側に面した漁業を基幹産業としている。ウニやアワビ、ホタテなどの特産品で知られる他、村の一大イベントである「沖揚げまつり」では、村民が一体となって観光客を迎え入れ、地域の特産品を振る舞っている。また、伝統芸能のである「沖揚げ音頭」や「竜神太鼓」、児童による「よさこいソーラン」の披露も行っている。

このように、地域と連携した活動が教育分野においても盛んで、地域の各団体や関係機関と連携しながら様々な体験学習を年間を通して行っている。



III 実践事例

1 地域住民・関係機関の協力による伝統・文化体験活動

神恵内村では、毎年7月第1日曜日に「沖揚げまつり」を実施している。これは村の一大イベントでもあり、神恵内小学校の子どもたちも大きく関わっている。沖揚げまつりを通して、地域の伝統文化や村民の多様な思いや考えに触れることで、神恵内村の魅力について考えを深め、ふるさとを愛し、積極的に社会に参画しようとする態度を養っている。

具体的な活動としては、3・4年生が総合的な学習の時間で地域の方からニシン漁の歴史や沖揚げ音頭について学び、当日のステージで沖揚げ音頭の踊りを披露する。1・2年生はちびっこカメラマンとして来場するお客さんを撮影し、手作りフォトフレームと一緒にプレゼントする。5・6年生は神恵内村のおすすめについて調べたことを、お客さんにプレゼンしたり、ホタテの稚貝を使ったストラップづくりなどしたりして、お客さんと触れ合いを深めている。更に、全校児童による「よさこいソーラン」を披露し、会場を盛り上げる一役を担っている。



2 地域住民との触れ合い活動

9月中旬（敬老の日）頃、神恵内村の高齢者施設を訪問し、メッセージやよさこいを披露している。生活科や道徳、総合的な学習と関連させながら、地域の高齢者との交流を通して、他者を尊重し、思いやりをもって接することなどをねらいとしている。子どもたちの元気のよいかげ声や踊り、心温まるメッセージを送ることによって、施設の方々からは、「子どもたちから元気と笑顔をもたらした」という感想をいただき、子どもたちの励みにもなっている。

3 豊かな自然を生かした体験活動

①漁業協同組合と連携したサケの稚魚放流やタッチプール体験

1・2年生が毎年4月に神恵内村の漁協青年部と連携し、サケの稚魚を古宇川へ放流している。2学期には、鮭やブリ、タコなどの多種多様な魚と触れ合い、低学年から地元の産業との関わりを体験している。



②地域おこし協力隊と連携した田植え、稲刈り活動

5・6年生が毎年5月に地域おこし協力隊や役場と連携し田植え体験を行っている。9月頃には稲刈り体験も行い、収穫した米は、「ふるさと給食」で活用している。



4 学校間教育連携

①保小中合同運動会

昨年度から保育所・小学校・中学校合同の運動会を実施している。村全体の子ども的人数が減ってきたことや3つの施設が隣接していることなどもあり、小中一貫だけではなく、保育所を含めた連携を図っている。



②泊村との教育連携

令和5年2月に神恵内村と泊村の間で教育連携に関する協定書を結んだ。子どもたちの交流学习はもちろん、教員間の研修も実施し町村を越えた教育連携に取り組んでいる。交流授業では、体育、道徳、外国語などを中心に行っている。また、今年度は参観日に交流学习を設定し、保護者にも参観してもらうことができた。



IV 成果と課題、今後に向けて

<成果>

- ・地域と共に学ぶことができる学習環境が整っている。
- ・地域全体で、「子どもたちのために」を合言葉に学習サポート体制がある。
- ・子どもたちの元気に活動する姿が、地域の活力になっている。

<課題>

- ・子どもたちの減少とともに、地域行事へ参加する児童数が減っている。
- ・限られた人間関係の中で交流することが多い。

<今後に向けて>

- ・地域を愛する子どもたちを育成し、地域から愛される子どもたちを育てる学校づくりをしていく。
- ・保小中一貫教育や泊村との教育連携をより充実し、人とのつながりを大切にする学校づくりをしていく。